

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

あけましておめでとうございます

美術展入賞!! 作文入賞

オリブ園こども発達クリニック開設



放課後等デイサービスインクルの在園生である
茂木大和くんの作品が郡市の優良作品となりました。
県の児童生徒美術展に出品されることになりました。
平成31年(2019年)1月10日~13日
秋田市文化会館に展示されます。

「大きくなって」という題名はサツマイモだけでなく
やまとくん自身の「大きくなって」が見事に
表現されていると思います。

手や指、サツマイモの蔓(つる)や葉っぱ、
そして驚いている顔の表情、すべてに
そのことが表現されていると思います。
県の児童生徒美術展でもよい成績が
得られることを願っています。

(評 後藤進)



オリブ園 こども発達
クリニック

が開設されました。

院長
後藤良治医師
日本小児科学会
指導医
医学博士

社会福祉法人グリーンローズ
オリブ園 こども発達
クリニック
小児科

☎018-838-5210 お気軽にお電話を

子どもたちの発達を中心に、オリブ園と連携して
診療・支援をしていきたいと考えています。
支援を必要としている子どもたちとその家族に
できるだけ早く支援につなげられるようにしていきたいと
考えております。

様々な心配や課題について相談に訪れてほしいと思っております。

子どもたちの風邪などや、体調不良など、予防接種などにも応じております。 予約が便利です。



この部分がクリニック(診療所)です。

裏面もありますよ!

何かありましたら誰にでも連絡・相談

ホームページ E-mail olive@kodomo-sekai.com
http://www.olive.kodomo-sekai.jp

●…子ども人権デーの集い…●

2018年12月 小中学生人権作文 最優秀賞入賞

オリブ園を卒園した子どもさんのお姉さんが書いた作文が最優秀賞4点の中に選ばれ、入賞を果たしました。

差別のない世界を作るために

中学校3年 田 央

私は、「障がい者」ということばが、あまり好きではありません。

私の三つしたの妹は、重複障害をもって生まれてきました。染色体異常による、知的障がいと身体障がいの両方があるそうです。確かに話せる言葉もまだ少なく、一人で歩くことも難しいです。しかし、私は妹を「障がい者」と意識して見たことはありません。私が、幼い頃は、妹に障がいがあると聞いていましたが、本当は信じていなかったほどです。

小学生の頃、友達に「妹は何処の学校に通っているの?」と聞かれたことがあります。私は迷わず「〇〇支援学校だよ。」と答えましたが、なんと、その友達には伝わらなかったのです。障がいのある人を支援する学校で、さらに私の地域からは遠いので、友達は学校の存在すら知らなかったのだと思います。私はこの時に、「大体の人は障がい者について知らないのだな」と思い、気がついたら友達に妹について聞かれてもあまりくわしく話さないようになっていました。

そんな私が中学生になり、友達に私の家で遊びたいと言われるようになりました。私は妹の姿や様子を見られるのが嫌なわけではなく、買い物なども一緒に出かけます。だから私は友達を家に快く迎え入れましたが、妹についての説明は一切しませんでした。何と言って紹介したら良いのか分からなかったからです。「障がい者です」とは何故か絶対に言いたくありませんでした。変な目で見られないだろうかという私の心配は杞憂に終わり、友達は自然に妹に挨拶をしてから私の部屋に入ってきました。友達がしっかり受け入れてくれている事に驚き、少し感動したのを覚えています。そこで私は漸く気がつきました。全ての人が障がい者を理解していないわけではなく、自分が勝手にそう思い込んで敵視していただけだったのです。よく考えれば分かったと今なら思いますが、妹について話すことを無意識に避けていた当時は視野が狭かったのだと思います。友達を通して気づいた事実に、私は衝撃を受けました。

それからは、私は周囲に妹について話すことをためらわなくなりました。ただし、「障がい者」という言葉は使わないと決めています。自分の思い込みに気づいたあの日に、私はこう思いました。「障がい者」という言葉は、使ってしまったら差別になるのではないかと。「障がい者」とは、「健全な人間」と「障害のある人」を区別する言葉です。そうだとするならば、「この子は障がい者です」と言ってしまうと、自分とは違うと言っていることと同じになり、私には差別に聞こえるのです。それが私がこの言葉を好まない最大の理由でした。せっかく友達が妹を自然に受け入れてくれたのに、姉である私が差別してはいけません。そう思う気持ちが、周囲に妹の存在を話す勇気となったのだと思います。

なぜ障がいをもつ人は差別されやすいのだろう。そう考えたときに、私は「障がい」があまり身近でないからではないかと考えます。人は、よく知らないものに積極的に関わろうとは思いません。私もそうです。だから、妹について話さないことで妹を差別的な目から守ろうとしていました。しかし、それは間違っていました。差別をなくすためには、みなさんにとって「障がい」がもっと身近になる必要があると思います。そのためには、存在を隠すのではなく、もっと発信して知らせた方が良いでしょう。もっと障がいをもつ人について伝えることで理解してもらい、交流の輪が広がります。すると、様々な人がいるということが理解でき、他人を思いやる心が広がっていくと思うのです。そうなれば、私も嬉しいし、妹も居場所が増えると思います。私はこのような良い循環を生み出せば良いと思っています。昔の私は自分が傷つくのを恐れ、周りに自らバリアを張っているようでした。しかし、友達や親、たくさんの人と関わったことで視野が広がり、考え方も変わりました。今は、障がいのある方とその周りの人との間にあるバリアを、解いていけたら良いなと思っています。

私の周りには、障がいのある人やその家族のためにたくさんのイベントなどを企画し、進めている方々がいます。私も何度かボランティアスタッフとして参加させていただきました。コンサートや障がいのある方の兄弟のための「きょうだいのじかん」など様々なイベントに参加すると、心温まるのを感じました。

障がいをもった子の姉として、私は決して不幸ではなく、むしろ多くの貴重な体験が出来て恵まれていると感じます。妹や家族には本当に感謝しています。今後障がいのある方と関わったときに、もし悩んでいるようだったら、ぜひ勇気を出して自分のことを周囲に発信できるよう手伝いたいです。また、将来的には「障がい者」という言葉が無くなるくらい、障がいのある方とない方の境界線がうすくなれば良いと心から願っています。